

# 竹生町の猿ヶ堂に行ってみよう



A SPECIAL EDITION  
by Team ぶらひがし

竹生町のおもしろい  
ネタをご紹介します。

今回は竹生町！

竹生町の猿ヶ堂山には、庚申塔(こうしんとう)が建っています。庚申の申の字はサルと読む関係から、庚申がいつしか仏教と神道とが混同して、庚申を猿田彦神として祀るようになったといわれ、それで猿ヶ堂と呼ばれるのだと思われます。

※記事引用: 清水町史



近くに八大竜王の祠があります。



ここです

獣道。ほんのちよっぴり探検です。



この礼拝場を右手に進みます。

ここが「猿ヶ堂」...  
ではないんです...



急な階段です。  
気をつけてください。

京福路線バスの下り線の停留所、「竹生」の脇に、「霊山 猿ヶ堂」と彫られた石碑があります。その石碑の横に、「猿ヶ堂」に向う長い階段があります。



「霊山 猿ヶ堂」の碑



「竹生」のバス停留所のすぐ近く

さあ、上ってみよう

## 竹生町のおいたち

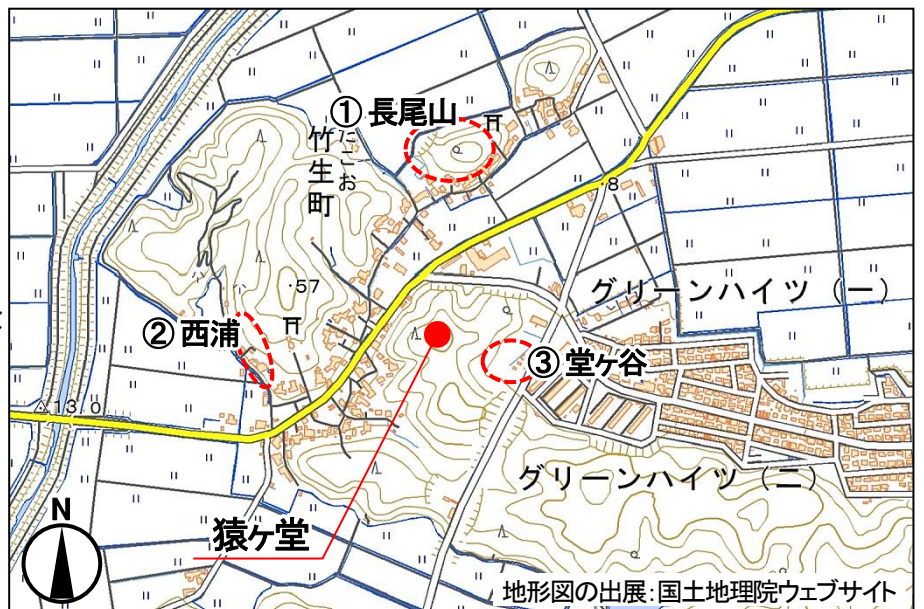
竹生(竹生町)は近くの片粕(片粕町)とともに、大昔から人が住みついた所です。昔の人は長尾山(※①)や西裏(※②)、堂ヶ谷(※③)などの山の中腹に住んでいました。特に西側の西裏の所から土器の破片が水田の中から発見されています。

竹生の地名については、昔若狭国丹生の浦(現美浜町)から、神様が「鯛(たこ: 海の生き物の“たこ”です)」にのって当地へお下がりになったので、「タコウ(※)」と呼ぶようになったと言ひ、昔は鯛を食べなかったという伝説があります。

また、竹が生い茂っていたので、「竹生」の地名が生まれたともいわれ、タケフと呼ぶのを「タコウ」と訛ったとも言われています。

※現在は、「タコオ」と読まれています。

記事引用: 清水町のむかしばなし



地形図の出展: 国土地理院ウェブサイト



# 「猿ヶ堂」にまつわるむかしばなし

## 猿ヶ堂と八大竜王さま

竹生（竹生町）の南の方に、猿ヶ堂という山があって、むかしこの山の上に美しい水が湧いていたそうじゃ。

「こんな高い山の上に、うつくさい水が湧くんって、不思議なこっちゃのう」ということで、小さいお堂をたてて、水の神様の八大竜王をお祭りしたそうじゃ。

ほいて、この山には、猿が何匹もいて水を飲みに来るんで「猿ヶ堂」って言うようになったんや。

ところが、いつの頃かわからんのやが、八大竜王さんが盗まれてしもうたんやって。ほいたら、うつくさい湧き水も出やんで、山も荒れほうだいになってもたんや。

ほれから何年かたって、ちょうど今から（※このむかしばなしが編集されたのは昭和61年です。）十年ほど前のことじゃが、竹生のある人に夢のお告げがあってなあ……。

「猿が堂へ、早う八大竜王を祭りなさい。」という、水の神様のご命令があったそうじゃ。

その人はびっくりしなして、村のもんに相談かけたんや。ほいたら、

「そりゃ、区長さんに世話してもらて、こっしょまいかのお。」

ということにきまって、さっそく石屋さんに頼んで、神様を彫ってもらて、立派なお堂にお祭りしたんやって。

ほいて、石段やお手洗いも、ぎょうさん寄付が集まったんで、いいもんにできたんやってのう。ほれからは、水をつかう商売のもんに、め

っぽうご利益があるちゅう話がひろがって、料理屋さんやすし屋さんが、遠いところからわざわざ、月参りに来なはるんやって話じゃ。

八大竜王さんは、玉子がお好きやそうで、みんなが玉子をもって参るんやって。ほいて、不思議なことに、あくる日には殻ばっかして、中身がのっているんやって。

「竜王さんがお食べになるちゅう話じゃが、がてんがいかなのう……。」

ほれから、また夢のお告げがあつてのう。

「山の下に向出（むかいで）屋敷のザクロの木の下を掘って見よ。」

ちゅうお告げで、さっそく木の下を掘って見たんじゃが、またまた不思議なことに、うつくさい水がトクッ、トクッと湧き出たんじゃ。

ほれで、向出さんでは玉石を積んで、お水汲み場をつくったんや。このお水は、猿が堂のおこぼれ水で、きつとご利益があるちゅうんで、遠い所からわざわざお水もらいに来るそうじゃ。

ほれからまた、猿ヶ堂は「鎌どめ山（かまどめやま）」って言うて、八大竜王さんは鉄の刃物がおきらいで、鎌（かま）や鉈（なた）・鋸（のこぎり）をつかうと、たたりがあるそうで、そう木が伸びほうだいになっているんやって。

ほいて、不思議なことに、そう木が蛇のようにクネクネとねじれ曲がってるそうじゃ。

この猿ヶ堂の山にはもう一つ、庚申堂（こうしんどう）ちゅうお堂に神様が祭つてあるんや。この神様は、青面金剛（しょうめんこうごう）さんちゅうて、青いお顔のおとろしい荒神様やつて話じゃ。

ほいてなあ、この神様は、人の悪口を言うと、その人の寿命をちぢめてしまふんやつて。ほれで六十日目ごとに回つてくる庚申の日にお祭りをして、神様のご気げんをとらなあかんのやつて。

この庚申まつりには、村のもんが当番の家を集つて、床の間に青面金剛さんの掛け物をかざつて、人の悪口を言わんよう、人のいいことを話つて夜あかしするんや。

今では、この庚申まつりもすたつてしもて、人の悪口を言うもんがふえたんや。



※ 昭和61年8月、旧清水町が発行した「清水町のむかしばなし」の中に収録されている、「民話」をとりまとめました。

※ 概ね原本のとおりのため、難解な方言もあるかもしれません。